

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第1区分
【発行日】平成16年11月11日(2004.11.11)

【公表番号】特表2000-509247(P2000-509247A)

【公表日】平成12年7月25日(2000.7.25)

【出願番号】特願平9-531750

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 31/198

A 6 1 K 45/00

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/00 6 3 5

A 6 1 K 31/195 6 0 3

A 6 1 K 45/00

【手続補正書】

【提出日】平成16年1月21日(2004.1.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年1月21日



特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第531750号

2. 補正をする者

住所 アメリカ合衆国 94607-5200

カリフォルニア州 オークランド トウエルフス フロア
フランクリン ストリート 1111名称 ザ リージェンツ オブ ザ ユニバーシティ オブ
カリフォルニア

3. 代理人

住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿四丁目3番17号

HK新宿ビル7F 電話03-3357-5171

氏名 (7904) 弁理士 中島 淳



4. 補正により増加する請求項の数

6

5. 補正対象書類名

明細書

6. 補正対象項目名

発明の名称

請求の範囲

7. 補正の内容

(1) 発明の名称を「メチルチオアデノシンホスホリラーゼ欠損細胞でア
デニロコハク酸シンセターゼ活性を抑制する活性抑制剤及びそれを用いる
方法」に補正する。

(2) 請求の範囲を別紙の通り補正する。



方 式 査 査



請 求 の 範 囲

1. 以下の (a) および (b) の工程を有することを特徴とする、メチルチオアデノシンホスホリラーゼ (MTAse) 欠損細胞においてアデニルコハク酸シンセターゼ (ASS) の活性を抑制する方法:

(a) 哺乳類のホストから得た細胞集団がMTAse欠損であるか否かを決定する工程; および

(b) 治療的に有効な量のASS抑制剤を当該ホストに投与する工程であって、ここで当該細胞と当該抑制剤の接触はMTAse欠損ホスト細胞からアデノシン5'一磷酸を枯渇させる効果を有することを特徴とする工程。

2. 前記工程 (a) が以下の (i) ~ (iii) の工程によって実施される、請求項1に記載の方法:

(i) MTAse欠損と推測されるアッセイ可能な細胞サンプルを得る工程;

(ii) サンプル中に存在する全てのMTAseコード核酸に特異的にハイブリダイズするオリゴヌクレオチドプローブを、当該サンプルに、サンプル中に存在する全ての当該核酸と当該プローブが検出可能なようにハイブリダイズすることを可能にする条件下で添加する工程; および

(iii) MTAseコード核酸がサンプル中に存在するか否かを検出するが、この場合、当該核酸の存在は当該細胞サンプル中のMTAseタンパクの存在を示唆することを特徴とする工程。

3. 当該ASS抑制剤がL-アラノシンである請求項1に記載の方法。

4. 当該ホストがヒトである請求項1に記載の方法。

5. 当該MTAse欠損ホスト細胞が、非小型細胞肺癌細胞、急性リンパ芽球性白血病細胞、神経膠腫細胞および尿皮腫瘍細胞から成る群から選ばれる原発性腫瘍細胞である請求項1に記載の方法。

6. 当該ASS抑制剤がホストに毎日または持続的に投与される請求項1に記載の方法。

7. 工程 (b) にしたがってホストを処置した後で、AMPの細胞内産生のための基質が当該ホストに投与される、請求項1に記載の方法。

8. 治療的に有効な量のアデニルコハク酸シンセターゼ (A S S) 抑制剤を哺乳類ホストに投与することを含む、哺乳類ホストの細胞で A S S の活性を抑制する方法であって、当該細胞がメチルチオアデノシンホスホリラーゼ (M T A s e) 欠損細胞であることが知られており、当該細胞と当該抑制剤の接触が M T A s e 欠損ホスト細胞からアデノシン 5' 一磷酸を枯渇させる効果を有することを特徴とする方法。

9. 当該 A S S 抑制剤が L - アラノシンである請求項 8 に記載の方法。

10. 当該ホストがヒトである請求項 8 に記載の方法。

11. 当該 M T A s e 欠損ホスト細胞が、非小型細胞肺癌細胞、急性リンパ芽球性白血病細胞および神経膠腫細胞から成る群から選ばれる原発性腫瘍細胞である請求項 8 に記載の方法。

12. 当該 A S S 抑制剤がホストに毎日または持続的に投与される請求項 8 に記載の方法。

13. 当該 A S S 抑制剤をホストに投与した後で、A M P の細胞内産生のための基質がホストに投与される請求項 8 に記載の方法。

14. メチルチオアデノシンホスホリラーゼ (M T A s e) 欠損細胞においてアデニルコハク酸シンセターゼ (A S S) の活性を抑制することを特徴とする、A S S 活性抑制剤。

15. 前記 M T A s e 欠損細胞がヒト細胞である請求項 14 に記載の A S S 活性抑制剤。

16. 前記 M T A s e 欠損細胞が、非小型細胞肺癌細胞、急性リンパ芽球性白血病細胞および神経膠腫細胞から成る群から選ばれる原発性腫瘍細胞である請求項 14 に記載の A S S 活性抑制剤。

17. 前記 M T A s e 欠損細胞が、以下の (i) ~ (i i i) の工程によって得られることを特徴とする、請求項 14 に記載の A S S 活性抑制剤：

(i) M T A s e 欠損と推測されるアッセイ可能な細胞サンプルを得る工程；

(i i) サンプル中に存在する全ての M T A s e コード核酸に特異的にハイブリダイズするオリゴヌクレオチドプローブを、当該サンプルに、サンプル中に存在する全ての当該核酸と当該プローブが検出可能なようにハイブリダイズすること

を可能にする条件下で添加する工程；および

(i i i) M T A s eコード核酸がサンプル中に存在するか否かを検出するが、
この場合、当該核酸の存在は当該細胞サンプル中のM T A s eタンパクの存在を
示唆することを特徴とする工程。

18. メチルチオアデノシンホスホリラーゼ (M T A s e) 欠損細胞において
アデニルコハク酸シンセターゼ (A S S) の活性を抑制することを特徴とする、
L-アラノシンであるA S S活性抑制剤。

19. A S S活性抑制剤とAMPの細胞内産生のための基質を含むキットで
あって、M T A s e欠損細胞への当該A S S活性抑制剤の投与が行われる前、当
該投与と同時、または当該投与の後に、当該基質がM T A s eを有する細胞に投
与されることを特徴とするキット。